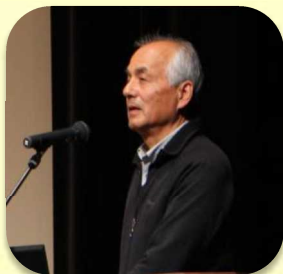


平成29年度 協働によるまちづくり 活動発表会

～来て、見て、活かす！まちづくりのヒントが満載～

開催報告書



主催：掛川市

（生涯学習協働推進課（まちづくり協働センター））

共催：掛川市地区まちづくり協議会連絡会

協力：掛川市区長会連合会

掛川市地域生涯学習センター連絡協議会

地区福祉協議会連絡会

目 次

開催結果概要	1
アドバイザー紹介	2
第1回まちづくり活動発表資料（アドバイザー講評）	
① 西山口地区まちづくり協議会【あした塾の取り組み】	3～ 5
② 佐束地区まちづくり協議会【事業を盛り上げる（広げる）ための取り組み】	6～ 8
③ 中村砦城山保全会【地域の歴史資源を活かしたまちづくり】	9～ 11
④ 株式会社キャタラー【知っておきたい キャタラーのCSR】	12～ 14
講評（川端務夢）	15
第2回まちづくり活動発表資料（アドバイザー講評）	
⑤ 倉真地区まちづくり協議会【里山ウォーキングコースの整備～地域資源を活かして～】	16～ 18
⑥ 大須賀第二地区まちづくり協議会【横須賀城址等を活かした交流活動等について】	19～ 21
⑦ I T T A【「一緒に歩む」楽しさ～協働でもっと私のまちが暮らしやすくなる～】	22～ 24
⑧ 株式会社資生堂【資生堂 掛川工場のCSR】	25～ 27
講評（川端務夢）	28
まちづくり活動紹介エリア	29
記録写真	30～ 31
アンケート結果	32～ 33

協働によるまちづくり活動発表会

～来て、見て、活かす！ まちづくりのヒントがいっぱい～

開催結果概要

- (1) 事業名 平成 29 年度 協働によるまちづくり活動発表会開催事業
- (2) 日時 第 1 回：平成 29 年 11 月 15 日（水）13:30～15:30
第 2 回：平成 30 年 2 月 24 日（土）13:30～15:30
- (3) 会場 第 1 回：掛川市美感ホール 多目的ホール
第 2 回：掛川市文化会館シオーネ 大ホール
- (4) 主催等 主催：掛川市生涯学習協働推進課（掛川市まちづくり協働センター）
共催：掛川市地区まちづくり協議会連絡会
協力：掛川市区長会連合会、掛川市地域生涯学習センター連絡協議会、
掛川市地区福祉協議会連絡会
- (5) 目的 平成 29 年度は、実践段階に入った「協働のまちづくり」を飛躍させ、市民、事業者と市がお互いに役立ちあい、支えあう社会を創り上げ「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」の実現に向け、市内各地で地区まちづくり協議会をはじめとした様々な団体により、より住みやすい地区とするためのまちづくり活動が更に活発に行われております。
- これからのまちづくりへの気運をより高めるため、市内各地で行われたまちづくり活動の事例を発表し、多くの皆さんに知っていただき、まちづくりへの新たな気づきを得る場とすることで、まちづくり活動が充実、発展し、より元気で希望に満ちた掛川市となることを目指し、「協働によるまちづくり活動発表会」を開催いたしました。
- (6) 内容 ・まちづくり活動発表会
【発表団体】各 4 団体（計 8 団体）
（地区まちづくり協議会 4 団体、NPO 2 団体、企業 2 団体）
協働の視点で特色あるまちづくり活動を行った団体が、その活動を発表することで、あらゆるセクションからの参加者がまちづくりへの関わりや、自らができる事を意識し、今後の取り組みへの気づきを得る場となりました。また、アドバイザーによる講評からさらなる活動発展へのヒントがありました。
- ・まちづくり活動紹介エリア（ロビー）
【展示団体】10 団体
（市民活動団体 8 団体、企業 2 団体）
パネル展示により、市内外で行われている様々なまちづくり活動の取組を紹介し、交流をもってもらうことができました。
- (7) 参加者 第 1 回：210 名
（地縁組織 147 人、市民活動団体等 23 人、企業等 14 人、行政等 26 人）
第 2 回：250 名
（地縁組織 193 人、市民活動団体等 27 人、企業等 10 人、行政等 20 人）

まちづくり活動事例発表

第1回

- ① 西山口地区まちづくり協議会【あした塾の取り組み】
- ② 佐東地区まちづくり協議会
【事業を盛り上げる（広げる）ための取り組み】
- ③ 中村砦城山保全会【地域の歴史資源を活かしたまちづくり】
- ④ 株式会社キャタラー【知っておきたい キャタラーのCSR】

第2回

- ⑤ 倉真地区まちづくり協議会
【里山ウォーキングコースの整備～地域資源を活かして～】
- ⑥ 大須賀第二地区まちづくり協議会
【横須賀城址等を活かした交流活動等について】
- ⑦ ITTA
【「一緒に歩む」楽しさ～協働でもっと私のまちが暮らしやすくなる～】
- ⑧ 株式会社資生堂【資生堂 掛川工場のCSR】

アドバイザー 紹介

千野 和子

Chino Kazuko

(公財)ふじのくに未来財団
副代表理事



公益財団法人ふじのくに未来財団
副代表理事として、「もっと、いいま
ちにしたい」と、自ら汗をかき活動し
ている皆さんを応援するため、人材
や資金等の情報を提供しています。

川端 務夢

Kawabata Tsutomu

掛川市協働による
まちづくりアドバイザー



掛川市協働アドバイザー（2015～）
静岡県のNPO中間支援機関「ふじの
くに西部NPO活動センター」の
センター長を歴任し、現在は市内外
の市民活動等へのサポートを精力的
に行っています。

上記まちづくり団体のまちづくり活動事例の
発表に対し、講評をいただくアドバイザーを
紹介します。

西山口地区まちづくり協議会

【あした塾の取り組み】

西山口地区まちづくり協議会は、まちづくりの仲間を増やすために、あした塾を通じて地区を知り、課題への対応策を考える人材育成事業を実施して、まちづくりの担い手の育成を目指しています。



西山口地区まちづくり協議会 設立3年間の実績及び29年度事業と課題



組織と事業の見直しー大きな改革点

①改革の好機 ②前向きにとらえよう ③踏襲からの脱却と創造
④メリット・デメリットを見極めて ⑤地域づくりは人づくり

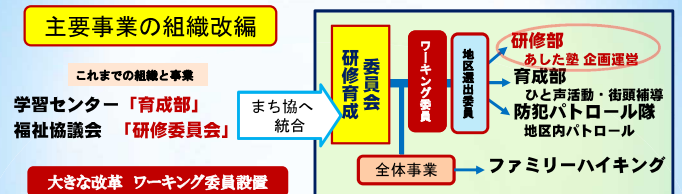
- (1) 広報紙の完全統合→「ひとがき」の発行
- (2) 研修部と育成部の統合→研修育成部へ
◇研修部事業として「あした塾」創設
- (3) 広報と研修に「ワーキング委員会」設置
- (4) 全体事業の改革と新設
●ファミリーハイキングの内容と方法の工夫
●フリーマーケットの創設（本年度3回目）

「あした塾」は、なぜつくったのか。

まち協設立時の目的と課題から

- (1) まちづくりは創造的改革の好機に
- (2) 地域づくりは「人づくり」とおさえて
- (3) 魅力ある活動なら人は寄ってくる
- (4) 担い手発掘とボランティア環境づくりは急務の課題（福祉は定着へ）
- (5) 人材の発掘は永遠の課題だが・・・

「あした塾」運営の組織と工夫



「あした塾」3年間の実績

- ◇ 26年度（まち協初年度）・・・7月～5月 11回
- ◇ 27年度（2年目）・・・・・・7月～3月 9回
- ◇ 28年度（3年目）・・・・・・7月～3月 9回
- ◇ 29年度（本年度）・・・・・・7月～3月 8回

◆毎月1回ペース 日曜日開催を基本

6月の区民のつどい
あした塾修了式
修了証書授与



年間計画の見直しと工夫

- (1) 組織上の取り組みの工夫
 - ① 1回ごとの内容を、ワーキング会議で議論を詰める。
 - ② 事務局サイド及びワーキング委員の役割分担の明確化
 - ③ 地区選出研修委員との有効なコラボレーション態勢
◇地区選出委員9名・ワーキング委員5名・事務局員8名
- (2) 活動メニュー内容の工夫・・・これまでのメニュー例
 - ① 塾生の思いや希望を取り入れながら・・・
 - ② 親睦交流・・・ならここでバーベキュー交流
見学体験・・・市内史跡、施設巡り・・・1回はバス研修
地域フィールドワーク
(だいろく山・石仏・伝説遺跡・自然)
小学校授業参観・校長先生の講話聴講
新年交流会・天浜線テクテク交流ハイキング
物作り体験・・・布ぞうり作り
AED体験・HUG（ハグ）講座
まち協・福祉活動へのボラ体験参加→ボラ参画のきっかけづくり

3年間の取り組みの中で・・・問題点、課題

- (1) 塾生募集方法と課題
 - ① 地区内回覧で募集
 - ② 知人等への肩たたき
 - ③ 現役員等への依頼
- (2) 実態として分かったこと
 - ① 自発的参画者は期待したより多くない
しかし、自発的参画者は貴重な存在
 - ② 中には夫婦で参加してくれるカップルも
 - ③ 活動内容に負担（難しい議論）が多いと敬遠され
座学研修・何か言われる・書かせられる等

人を知り
地域を知り
楽しい活動

ここがポイント

メニュー内容の工夫がネック

- (1) 楽しく参加できるメニューを企画
- (2) 体験参加型の活動を多くする
- (3) 人を知る・地域を知る活動が喜ばれる

4年目の結論

- ◇難しい、負担の多いメニューは避ける
- ◇気軽に、楽しく参加できる内容
- ◇都合で欠席してもとやかく言わない



塾の目的（取り組みの基本）は・

- ◇人を知り、地域を知り、楽しい活動
- ◇ボランティア参画のきっかけづくりの場を提供している。

◆塾生が福祉活動やイベントへのボランティア体験参加の手だてを講じていて、これをきっかけに、次年度に何人かがボランティアやサポーターとして地域活動に参画をしてくれている。

9

4年間の参加者記録

男性 女性

西山口まちづくり協議会 あした塾 塾生加入記録			
№	26年度 第一期生	27年度 第二期生	28年度 第三期生
1	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
2	花子 成 雄	花子 成 雄	花子 成 雄
3	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
4	花子 成 雄	花子 成 雄	花子 成 雄
5	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
6	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
7	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
8	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
9	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
10	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
11	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
12	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
13	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
14	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
15	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
16	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
17	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
18	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
19	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
20	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
21	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
22	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
23	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
24	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
25	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
26	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
27	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄
28	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄	佐紀子 成 雄

※氏名はフルネームを避けた

4年間参加人数推移



+

毎回の出席者

ワーキング委員 5人
地区選出研修委員 9人
事務局員 8人

毎回の出席対象者数50人
※地区選出委員は当番制
受付・準備等役割分担

10

28年度 第3期 年間計画 29年度 第4期 年間計画

※一部内容が変更する可能性

回数	月	日	曜	内 容
第1回	7	24	日	開塾式 塾生説明・まちづくり協議会と事業について 福祉活動ボランティア活動について ボランティア活動について
第2回	8	21	日	バーベキュー・飯沼交流会 バーベキューでまちづくりを深めよう 場所：ならこキャンプ場
第3回	9	11	日	まちづくり協議会について 心豊かなまちづくりを考える一環 講師 御前崎市まちづくり協議会 心豊かなまちづくり協議会
第4回	10	16	日	西山口の歴史を知るフィールドワーク 西山口地区内西・南方面 川崎町入口・一里塚 石仏の里・大石山等
第5回	11	13	日	市内西部地域をバスで巡る 文化・歴史・遺跡巡りの旅 見学地 寺田町・西郷隆盛公伝 宮田・西郷隆盛公伝
第6回	12	11	日	身近な防災を考える一環 講師 飯沼交流会 防災訓練
第7回	1	15	日	福祉活動ボランティア活動に学ぶ ボランティア活動紹介 心豊かなまちづくり協議会 心豊かなまちづくり協議会
第8回	2	26	日	物づくり体験・布ぞり作り体験 講師 飯沼交流会 心豊かなまちづくり協議会
第9回	3	5	日	まとめ 心豊かなまちづくり協議会 心豊かなまちづくり協議会
修了式	6	未定		開塾式・まちづくり協議会（6期）にて 修了式 心豊かなまちづくり協議会

回	月	日	曜	内 容
第1回	7	2	日	開塾式 自己紹介 西山口に生んで...感想、意見フリーク まちづくり協議会と事業を知る、意見交換
第2回	7	30	日	飯沼交流会・バーベキュー ならここま 来予日 8月6日
第3回	8	20	日	こはみんなで考えよう まちづくり協議会 飯沼交流会（HUG）講座 防災・防災訓練
第4回	9	24	日	西山口地区歴史文化フィールドワーク 史跡、地蔵を巡る
第5回	11	26	日	直虎ゆかりの地・御前崎市施設巡り 新野・佐々木・飯沼・左馬神社 御前崎・西郷隆盛公伝・ならこ市場 飯沼・地蔵神社...バスの旅
第6回	12	8	金	西山口小の最近の教育を見学し、学ぶ 午後飯沼交流会・防災訓練 その後 校長先生講話
第7回	1	21	日	ボランティア講座 飯沼交流会・ゲームと飲み会を通して
第8回	2	18	日	天候観で...てくてくハイク コース・目的地地めぐり
第9回	3	4	日	反省会・まとめ
修了式	6	未定		※30年度区民のつどいの冒頭に修了式 6月の第二日曜日 10日になる可能性



自己紹介をトーク戦で楽しく



防災をテーマに講演会とワークショップ

第三期
28年度



バスで西部エリア研修



左：天浜線原野駅構内で「ぼっぼ屋原谷会」のみなさんと合唱交流
右：春林院の住職さんの法話を聴講し心洗われるひとときを過ごす

12



HUG体験講座

現在進行中

第四期
29年度



東部エリアフィールドワーク 天養院にて



手前でどなたかがリードしています。

第4回（本年度）7月2日開塾式での開会セレモニー・・・「麦焼競争」「合唱」でみんな楽しく、この笑顔



「沖ちゃん塩づくりの会」見学交流



新年会の前段に・・・ボランティアを学ぶ



杉谷の興禅寺で、大六山にあった石仏を見学する。地域西部エリアフィールドワーク



布ぞり作り体験一講師は福祉ボランティア

こんな活動
メニューも②



定番になったバーベキュー交流会
そのひととき自己紹介タイム



釣り人からの
アユの差し入れが恒例に

こんな活動
メニューも①



AED・救急講習で実践訓練



ワーキング委員会
毎回の企画会議で議論して



西山口あした塾
毎回初回に記念写真



6月の区民のつどいであした塾修了式
修了証書を授与します

成果と課題・・・人材育成への展望

- (1) 「参加して楽しかった」の活動の場の提供
- (2) 「やらされ感」のない組織と創造的事業を
- (3) 全ての活動にボランティアの土壌づくりを
- (4) 魅力あるメニューによる人寄せ環境
- (5) 誰かがやらなきゃ、地域は活性化されない

★人材の取り込みと育成は、どこの地域も永遠の課題。だから、なんらかの手を打たなくては人は寄ってこない。
その対策＝事業の工夫・携わる役員の意欲と情熱が根底になる。
そして・・・その前向きな協働態勢は必須事項。
「打てば響く」協力者は必ずいる。が、いつべんにはできない。地道な努力が徐々に効果をもたらすのではない。
「あした塾」は気長に続けていくことが、人材の発掘につながる。



アドバイザー講評 千野和子

発表を伺い、三つ大きく感心しました。

まず、参加者の立場に立って講座を企画している点です。皆さんがどういう気持ちでご参加されるかを検討された結果、地域ならではの配慮がされています。

「あした塾」が人材育成や人材発掘のツールであることを明確に認識しているからできると思うのですが、ボランティア参加の選択肢を地域の方へ提供していることで、誰かが何かの形で関われると思わせる工夫が感じられました。

さまざまな課題の分析をされていると思いますが、組織の強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、また外部からの

目的達成に貢献する機会(Opportunities)や、脅威(Threats)などの要因を分析する『SWOT分析』が企業でも行われています。外部の人材を入れて一緒に見直しをされると、もっと発展的になっていくのではと感じました。

また、目的はボランティア参加を増やすこと、と伺っています。現在は、どのくらい参加したという「数」が指標になっていますが、講座の参加者から、自分が好きなことで講師側になるという指標でもいいと思います。

そのような数がどれだけ増えたという成果を外に示すことで、先駆的な組織として、これからもまた他の団体の目標となると思います。

この団体の発表、資料をご覧になって
「良いね!」と感じたことは何ですか?

自分たちの活動に活かせると思うことは
何ですか?

自分たちの団体の『SWOT分析』をして
ください。

○組織の強み(Strengths)

○組織の弱み(Weaknesses)

○団体のチャンスとなる機会(Opportunities)

○団体の脅威(Threats)

佐東地区まちづくり協議会

【事業を盛り上げる（広げる）ための取り組み】

地区ビジョンに向け、多くのまちづくり活動を行ってきましたが、まちづくり事業への興味、関心をより高め、まちづくりをもっと盛り上げたい、との思いから、協働による事業を進めました。



地区ビジョン「幸せを感じ、住んでよかったと思える佐東地区」に向けて

- ①地区住民のまちづくり協議会事業に対する興味・関心を上げたい。
- ②部長・副部長をはじめ、専門部員の意欲を高めたい。
- ③事業に関する知識や技能をもった適切な人材を増やしたい。



そのために**地区全体**で取り組んだ。

- ①まちづくり協議会の活動を広報「ふるさと さづか」で知らせる。
- ②仕事の内容を明確化する。また、基本的に各部（部長・副部長）の案により実施する。
- ③得意な分野を持ち寄り、協働で事業を行う。

佐東地区まちづくり協議会

事業を盛り上げる（広げる）ための取り組み

地域内の協働①

広報「ふるさと さづか」 (広報部)

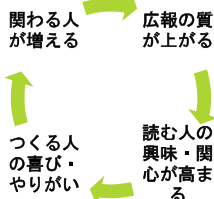
- 地区住民に事業への理解を深めるために
- ①広報部発行の広報「ふるさと さづか」で知らせる。
また、「ふるさと さづか」は、まちづくり協議会の事業だけでなく、地域のニュースを取材して掲載している。
 - ②事業の案内をこれまでの回覧から全戸配布にした。

「ふるさと さづか」



協働のまちづくり

- ▶楽しんで取材や編集に参加することで、チームワークが向上。



例年より参加者が増加し46名、小中学生13名が参加した視察研修

地域内の協働②

仲よし学校

(佐東小学校PTAと教育・文化部共催)

3年前まで、PTAとコーディネーターで実施していた。

協働のまちづくり

- ▶まち協の発足により、コーディネーターを中心にまち協とPTAの共催となった。

内容は地区の寺での座禅体験、お年寄りとの交流など。



地域内の協働③

敬老会 (福祉部)

協働のまちづくり

- ▶区長会と佐東地区まちづくり協議会の共催
- ▶小中学生との協働
⇒小学生にお祝いの言葉、中学生に案内やお茶出しを依頼。
- ▶地区内の学校、子供会、活動団体との協働
⇒城東中吹奏楽部、高瀬子供会、岩滑のさくら合唱団の出演。



地域内の協働④

センターまつり (教育・文化部)

協働のまちづくり

- ▶地区の小中学校、団体、個人との協働
⇒室内を彩る作品の展示、芸能発表会、屋外イベント（共同作業所、JA、フリーマーケット、風作り）



平成29年度は新たな取り組みとして、杏林堂薬局と保健委員の協働により「健康栄養相談」「健康測定（骨密度、血管年齢）」を実施し、大盛況でした。



地域内の協働⑤

佐東発見くるりんワーク (健康体育部)

協働のまちづくり

ウォーキングから地域を知る。

- ▶ これまでの佐東地区全体のウォーキングから範囲を絞って、地区内の歴史探訪や企業の見学等のコースを部員が作成した。
- ▶ 本年度に全地区のコースが完成。
- ▶ 平成27年度は高瀬コース（参加者約60名）
- ▶ 平成28年度は小貫・中方コース（参加者約100名）
- ▶ 平成29年度は岩滑コースを計画中



外部との協働①

エコ環境教室 (環境部)

協働のまちづくり

協働相手：NPO法人 おひさまとまちづくり

- ▶ NPO法人 おひさまとまちづくりに講師を依頼し、エコ環境教室を実施。
- ▶ 平成28年度に引き続き、平成29年度も実施した。
- ▶ 内容は、牛乳パックを利用したはがき作り「世界に一つだけの葉書を作ろう」と環境学習。
- ▶ 親子で楽しく葉書づくりをしたが、親も夢中になっていた。



外部との協働②

敬老会 (福祉部)

協働のまちづくり

協働相手：NPO法人 掛川市体育協会

- ▶ NPO法人 掛川市体育協会から講師を招き、健康体操を敬老会で取り入れた。
- ▶ これまで地区内の団体などと協働し、様々なアトラクションの工夫を行ってきたが、専門性を持った外部と協働することで、アトラクションの幅がさらに広がった。



外部との協働③

防犯講習会 (交通安全・防犯部)

これまでは、基本的に対象を高齢者として、交通安全について講演を実施してきた。

協働のまちづくり

協働相手：掛川市防犯リーダーの会

- ▶ 平成28年度には、掛川市防犯リーダーの会に講師を依頼し、防犯講習会を実施。



外部との協働④

環境講演会 (環境部)

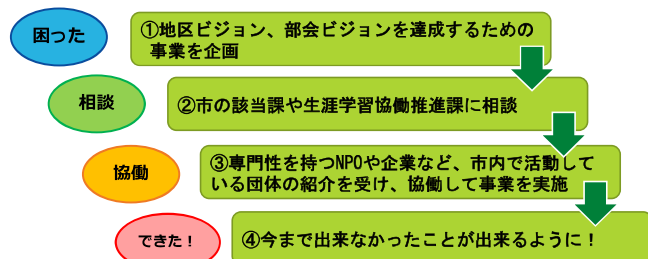
協働のまちづくり

協働相手：静岡県地球温暖化防止センター

- ▶ 平成28年度は、静岡県地球温暖化防止センターの服部氏を講師に招き実施。
- ▶ 演題は「地球温暖化と私たちの暮らし」～冬の省エネ～



外部との協働の流れ



成果

- ①地区住民のまち協の事業への関心が高まりつつある。
- ②意欲的に取り組む専門部長・部員が増えた。
- ③地域の交流や関わりが増えた。
- ④若い人の参加が増えた。



さらに広げていくために・・・

- ①企画部会のあり方の共通理解や組織についての検討を進める。
- ②専門部員が単年度での交代が多いため、各事業をどう継続し、発展させていくか。

幸せを感じ 住んでよかったと思える佐東地区			
広報部 ～誰でも関心をもつ広報活動を目標～	健康体育部 ～健康一歩、笑顔いっぱい～		
環境部 ～住民のやさしい思いやりは美しい環境の中で育まれる～	交通安全・防犯部 ～安全安心で住みよい佐東まちづくり～		
福祉部 ～いきがいのあるまちづくり 支え合い安心できるまち「佐東」～	教育・文化部 ～異世代で協力し合い、文化向上を目指す～		

ご静聴ありがとうございました。



発表を聴いて、地区の皆さんがとても楽しんでこの活動を1年間を通してやっていらっしやると感じました。しかし、これほどの量の活動を運営するのは、決して楽しいだけではできないのもよく分かります。活動を客観的に分析してみると、他地区の方々の為にもなる良いところがたくさんありました。

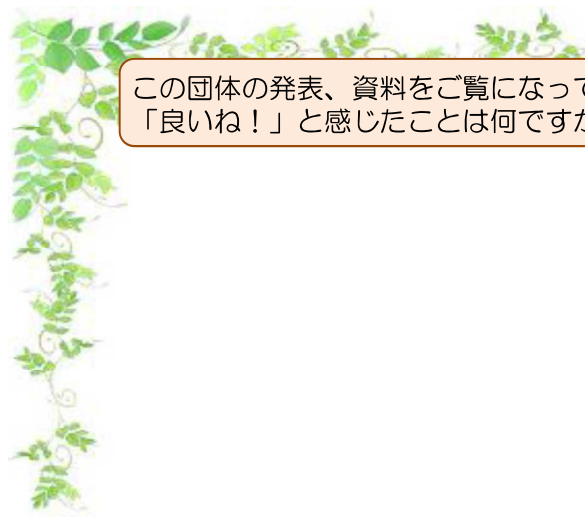
まず、NPO法人、福祉事業所、民間の社会的な活動を行う団体などの外部的な関係性がある団体（ステークホルダー）を探し出す力に長けています。これは、行政との情報交換や共有などが頻繁になされているということだと思います。

それから、写真の中にニコニコ笑う子どもが写っていましたが、多くの行事に子ども達が参加されていたのだと思います。次なる世代がさまざまな形で関わることが素晴らしいですし、今後の発展性についても大きな期待が持てます。



子どもが参加すれば、その親が来て、親御さんも含めて地域の皆さんとの交流も生まれます。そして、その参加者が運営者や発案者になれる仕組みを作っていくことが、更なる広がりを作るためには必要になります。

最後に、専門部員が単年度で交代してしまうということについては、課題はあるかもしれませんが、交代期間を複数年に変えるなどにより運営も安定します。また、新たな人材を発掘するために、参加者も事務局的な運営に少しでも関わることで、歩みは若干遅くなるかもしれませんが、参加者がやりたいことができる仕組みづくりができます。地域の小さな商店も社会貢献をしたい、地域の中で生きていきたい、と思っているはずですので、ぜひ巻き込んでいただければ、と思います。



この団体の発表、資料をご覧になって「良いね!」と感じたことは何ですか？

自分たちの活動に活かせると思うことは何ですか？

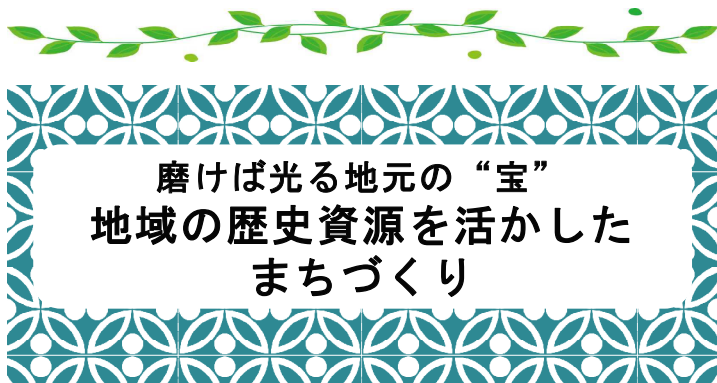
自分たちの地域の外部的な関係性がある団体（ステークホルダー）は何ですか？



中村砦城山保全会

【地域の歴史資源を活かしたまちづくり】

中地区にある戦国時代の遺構「中村砦」が手つかずの状態であって荒れ果てていました。この歴史的遺構を保全し、緊急避難所や憩いの場として活用できる地域の“宝”を創り出す活動を、皆さんとの協働で行っています。



地域住民と一体となって砦復活（まだ道半ばです）の活動報告紹介

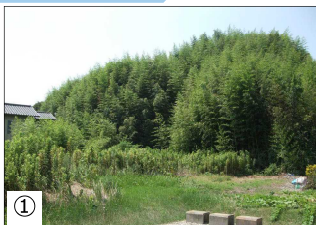
中村砦城山保全会

（松浦富夫 新聞貞夫 赤堀正文 松本喜久男 河村秀雄 熊切 勝）

中地区まちづくり協議会

2 中村砦の現状

- 中地区（高塚区）にとっては、由緒ある遺構でしたが、過去に土地利用のつまりきや、土地所有者の変遷により、手つかずの状態が長く続いてきました。
- このため、山部の崩土はもとより、雑草、竹林が伸び放題。建屋、家屋に覆い被さり、また、不法投棄も散在していて周辺環境に悪影響を与えるに至っていました。
- 個人所有の土地であり、地域住民だけでは解決できない課題も山積し、手をつけることさえできない状況でした。



①



手を入れる前の砦の写真



②

3 この砦を何とかしたい

中村砦を地域の宝としていくための想い

平成24～28年度の地区集会にて市へ訴えた。

市『地権者が個人であるが為、行政で対応ができない』
・・・困った。

これからもこのままで良い訳がない。何とかしたい。



自らができることから始めよう

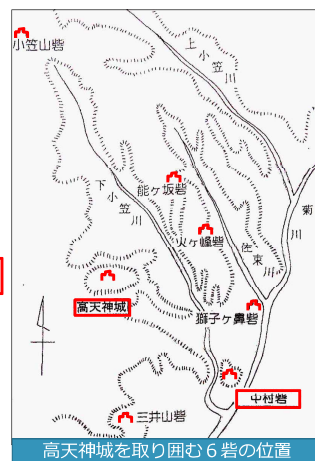
- ⇒ 地権者の住んでいる沼津まで出向き、何回も交渉を重ねた。
- 何回も何回も説明するうちに、少しずつ納得していただいた。

1 中村砦とは？

- 天正7年（1579年）徳川軍が高天神城を攻め落とす為に築かれた6砦の1つである。
- 特に中村砦は6砦の中で一番南に位置していて、水運を利用して兵糧の備蓄を行い、高天神城への食料補給を断つために重要な砦と言われている。



中村砦の概要図



高天神城を取り囲む6砦の位置

3 この砦を何とかしたい

もともと地域の宝。磨けば光る。荒れたままにはしておけない。何とかしたい。

- このところの大震災で地区住民の間でも防災意識が一段と高まり、緊急避難所、歴史的遺構の保全、地域住民の憩いの場所に活用していきたいと地域住民の間でも声が上がってきました。
- その住民のうねりが、ひしひしと当時担当区長の耳にも入り、何とかなくては、となりました。
- まず、取っ掛かりとして、当時の区長が先頭となり、市の協力をお願いして前に進もうとしました。



H28.11.27 松井市長現地視察

4 保全会の立ち上げ

保全会メンバーだけでは解決できない問題も

- ①土地所有者との交渉
- ②砦保存に関すること
- ③保全に当たっての器具の購入費用
- ④購入費用捻出
- ⑤命山避難地としての進入路

竹伐採後の粉砕費用と諸作業

平成28年1月 地権者との交渉が成立

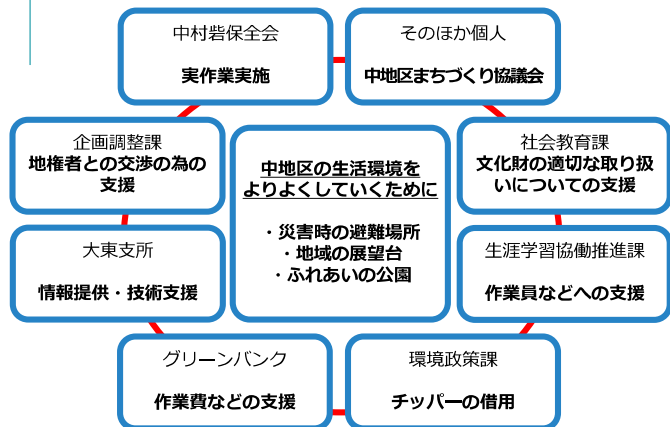
- ⇒ 結果、ようやく山へ入り作業ができることに！
- やっと地元での手入れが可能になった。

平成28年2月 中村砦城山保全会の立ち上げ

中村砦の保全を目的に、地区にて協賛者を募り、一緒に汗を流す仲間『中村砦城山保全会』を立ち上げることとしました。

会長 松浦富夫 他役員4名

5 協働事業（支援してくれた関係部署）



6② 作業内容



① 多くの皆さんの参加で、徐々に山の形が見えてきた



② 大きな枝はチェーンソーで処理



③ 伐採面積も広いので、切り出される木、竹の量も多量 竹チップは茶農家茶草利用



6④ 作業内容 Aブロック 住宅横の作業



① 住宅に竹や木が迫っている



② 掛かる竹や枝を刈り取る



③ 重機などを使い処理



④ 作業後

7 活動の成果



① 荒れた竹林の再生

② 東に富士、南に遠州灘、北に南アルプスを、朝夕にすばらしいノラマを見られる地域の憩いの場に

③ 緊急時の避難地の確保に

➢一石三鳥！！地域の課題が、宝に生まれ変わった

➢城山保全会と地域との協働でおこなったことで、地域全域にこの地域の宝として、改めて認識された

➢何より、地域力の結集で、地域の繋がりができた。

➢郷土愛が深まった。



➢平成29年3月31日 中地区まち協、市との3者で覚書を取り交わした。

6① 作業内容



① 地域協賛者による竹伐採と竹粉砕作業 H28年5月から開始



② 隣接する住宅に覆いかぶさる竹をみんなの力で取り除く



③ 広大な面積のため、重機も活用



④ 大型重機で進入路建設

6③ 作業内容



① ② 参加者は、それぞれができることで関わっている



③ きれいになると、うれしさもひとしお



④ ダンプ積み込み 木材は地元区民の新利用

7 活動の成果

現在までに1/4程度の整備ができた。

➢住民有志による活動で、砦跡がすこしずつ見えてきた。目で見ても変化が実感でき、関わり合ったことが、今後の協働活動においてプラスになるだろう。

➢当初協賛者も地元の人たちだけだったが、少しずつ他区からの協賛者も増えてきた。

➢私たち保全会、有志だけでは解決できない事項があったが、市の支援、ほか個人様からのご支援があったからこそだと思う。



8 今後の取り組み

今後の取り組みとしては、より多くの参加者を募り、地域一丸となって保全作業と維持管理と更なる活用を地域住民のアイデアでもって、心に残る場所としてつないでいけたらと思っています。

まだまだ道半ばではありません。今後も活動計画書をもって少しずつ確実に進んでいこうと思っています。この場をお借りして、関係各位の引き続きのご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、私たちが学んだことは、

『何事も黙って見ているだけでは、何の進展も解決策もない』ということです。

『何とかしよう！』という意思と心構えがあれば、自ずと道が開け、解決案が出てくるものだと感じました。

ご静聴ありがとうございました

地域に課題がある中で、その課題に対してどのような協働で、どう解決につなげるのか、というそのプロセスがマニュアルどおりに行われてきたとても良い例だと思いました。

この事業は、単独での解決をしようとせず、利害関係者を洗い出し、状況を共有し、協働により取り組まれています。協働相手である、行政、地域、地権者等もそれぞれに役割がありますので、それを明確化し、役割を充分に果たしていった成果だと関心しています。

砦の復活に向け、整備もまだ1/4が終わったばかりと言うことから、これからも今後の事業計画、資金調達、ボランティアの参加や人的資源の配分、また行政の協力などの様々な支援が必要になってくると思います。

このようなとき、今回の発表資料のように、それまでの成果について、わかりやすく可視化されたものを、もっと発信していくことで、更なる協力者が現れて、活動が進むと思います。

これからの活動も期待しています。

この団体の発表、資料をご覧になって「良いね！」と感じたことは何ですか？

自分たちの活動に活かせると思うことは何ですか？

地域課題は何ですか？そしてそれを課題と感じている団体はどこですか？

株式会社キャタラー

【知っておきたい キャタラーのCSR】

キャタラーは、事業活動を行うあらゆる地域において、独自にまたはパートナーと協力して、コミュニティの成長と豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進しています。



CSR

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY

会社の 社会的 責任

Copyright © CATALER CORPORATION. All Rights Reserved.



Copyright © CATALER CORPORATION. All Rights Reserved.



Copyright © CATALER CORPORATION. All Rights Reserved.



ITEM 貳

Nagano 掛川市 キャタラー

災害対策及び防災

地震・津波の対策 Yamanashi

提供 掛川市 (右上2点)

Copyright © CATALER CORP. F C R. All Rights Reserved.

避難用高台『命山』

被災時のための備品 (救助用品・水、食料等)

避難所案内の電柱広告

Copyright © CATALER CORPORATION. All Rights Reserved.

ITEM 参

Nagano 掛川市 キャタラー

子ども・青少年の育成支援

Yamanashi nagawa

2016/8/24/wed AT: 掛川市生涯学習センター

第1回 白熱!! サイテフ教室 CATALER CSR

Copyright © CATALER CORP. F C R. All Rights Reserved.

CATALER CSR

大坂小学校で出前授業を開催しました

9.13 WED

Copyright © CATALER CORPORATION. All Rights Reserved.

育休取得後の復帰率

100%

(2012年度～2016年度 出産女性)

キャタラー
驚きの100%

VS

世間相場
43.1%

「育児短時間勤務制度」平均利用率

85%

対象: 2012年度～2015年度

キャタラー
小学3年まで

VS

法律
3歳まで

出展 内閣府「仕事と生活の調和レポート2011」

Copyright © CATALER CORPORATION. All Rights Reserved.

ITEM 四

Nagano 掛川市 キャタラー

環境保全

美化活動区域 CATALER CSR

Gray Buildings 2008 ZENRIN Google earth

2016/06/04 アサヒロード活動 (国東18歳以上参加) CATALER CSR

【美化ボランティア】前浜海岸清掃に参加 CATALER CSR

Copyright © CATALER CORP. F C R. All Rights Reserved.

2016/12/11(日) クリーンウォークに参加 CATALER CSR

2016/06/05 (SUN) @前浜海岸清掃活動 CATALER CSR

掛川法人会 クリーン作戦 in 高天神城

クリーン作戦 w/ 掛川法人会

前浜海岸清掃 w/ 地元自治体

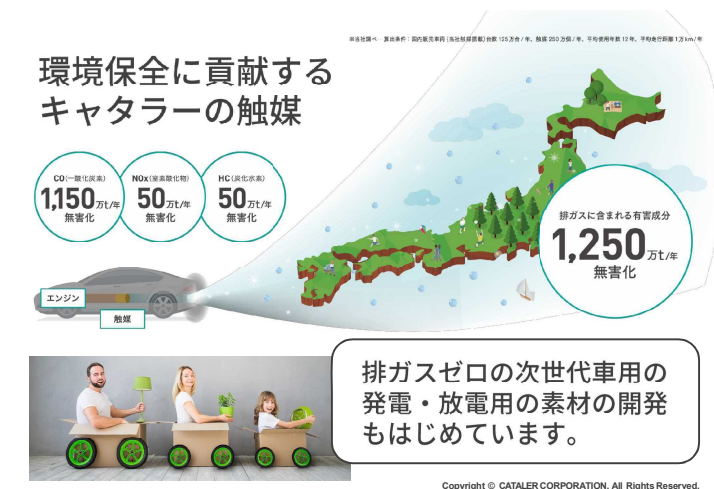
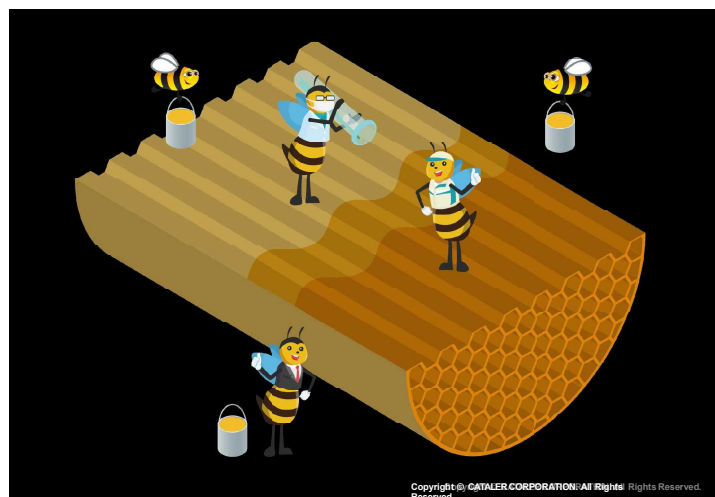
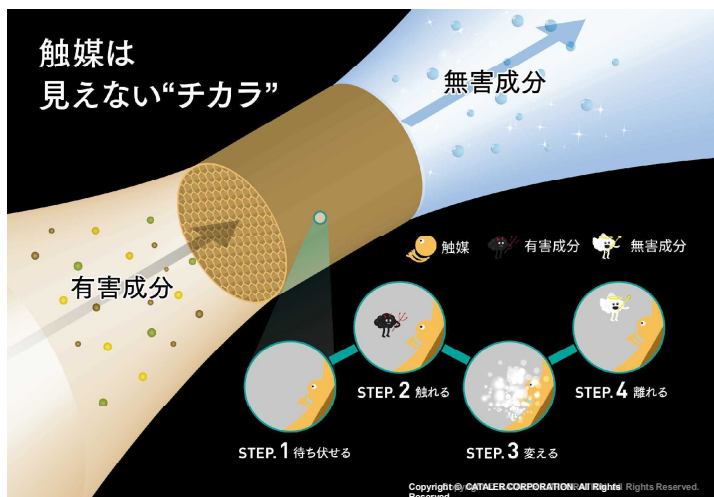
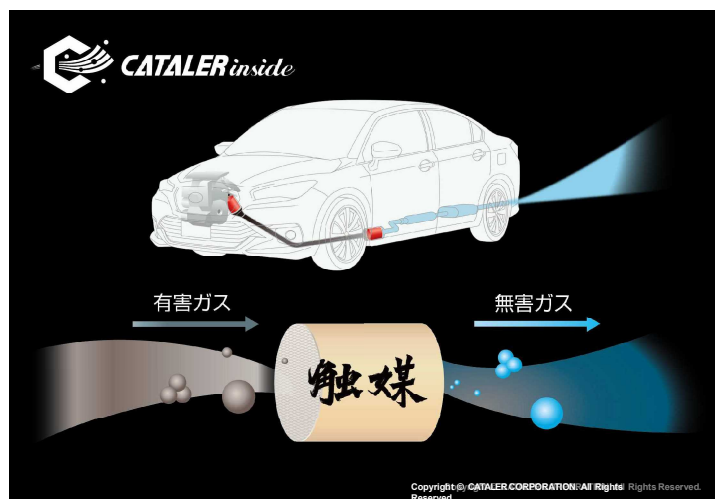
浜岡砂丘清掃 (当社新入社員)

Copyright © CATALER CORPORATION. All Rights Reserved.

しょく ばい

触媒

Copyright © CATALER CORPORATION. All Rights Reserved.



アドバイザー講評 川端 務夢

今はCSRという言葉がありますが、もともと、遙か昔から近江商人には「三方よし」という発想がありました。これは、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」というもので、企業は世間の中で生きていかなければだめですよ、と言われたものです。ところが、高度経済成長の日本では、世間と関係のない動きをしている企業も多数でできました。

しかし、キャタラーさんは本業にて触媒を売るだけでも環境を守っていただいているので「世間よし」ですが、さらに踏み込み『地域の中でなにができるのか』という課題をお持ちいただいているということは、とても素晴らしいと思いますし、その工場が掛川にあるということが市外に住む私からは、とても羨ましく感じました。



規模の大きい企業では、対応が難しいCSR活動もあると思います。しかし今後、地域主体のまちづくりが進むことで、地域から企業に相談事が来ることも想定されます。このため、いつでも問い合わせができる相談窓口の機能を、企業の中に作っていただけると、とてもありがたいと思います。

また、キャタラーさんは多くの仕入れ先をお持ちであると思いますので、この方々に、社会貢献活動を一緒にやりましょう、という提案、提言をしていただければ、CSR活動が、より身近になってくるのではないかと思います。

これからも引き続き御協力をいただいて、掛川のために一緒に活動していただければありがたいと思います。



アドバイザー第1回全体講評（川端務夢）

昨年の発表会でも講評をさせていただきましたが、格段に進化していると感じました。昨年の段階ではそれぞれのまちづくりの組織体、NPOの組織体がばらばらに活動していたものが、今回の発表ではともに地域を良くするという方向性を持ち始めています。これはとても素晴らしいことです。

この中で、地域に住む人が地域をより良くしていく啓蒙、啓発の一翼を担えています。ただ、今後のことを申し上げますと、地域の問題は、初めに本日いらしている地域の役員の皆さんが気付きますが、地域に住んでいる人たちはそれが地域の問題であるとの認識がまだ無いかもしれません。これは、商売でいうマーケティングということにも繋がりますが、皆さんの気付いた思いはまだ提案で「シーズ(種)」です。地域の人たちはニーズだと思っていますが、まだニーズになり得ていません。

しかし、今回の発表団体の地域では、皆さんの日々の活動によりニーズが生まれ始めています。つまり、今まで地域の問題を自分たちで考えましよう、と訴えかけていたものが、地域に住む人たち自身のものになってきているのです。ただ、これがビジネスになった場合、「wants」買おう、という意識にならないといけません。自分も参加しようという気持ちが、自分が運営して行こうという気持ちになって初めて「wants」になります。そのための仕組みのヒントは、今日の発表にいっぱい含まれており、例えば20代、30代の若い世代を集めるために、まず子ども達を集め、そうするとお母さん、お父さんが集まり若い世代の参加率が高まった、という自然発生的なものではありますが、それを見落とさないことが、これからのまちづくりではとても大事な形だと思います。

今日始まる前に発表者の方々と話をされていて、掛川市の市民力はとても高いと感じました。それは報徳精神と生涯学習ですよと伺いました。掛川愛があふれており、これはとても素晴らしいことです。日本の未来のための地域モデルを掛川から生み出し、発信することができる素養を皆さんはお持ちです。

皆さんは活動する上で、これが足りないことだなと感じ行動することも大切ですが、3、4年で地域のニーズは変わります。事実に基づいた活動が大切になります。そのためにも、地域の声を吸い上げる仕組みづくりをお願いします。また、人が動けば、お金が必要になってきます。収益とまでは言いませんが、お金が回る形での事業の継続をお考えいただければと思います。

倉真地区まちづくり協議会

【里山ウォーキングコースの整備 ー地域資源を活かしてー】

一昔前までは、生活の営みの一部であった里山も、時代の流れにともない人々は山から離れていきました。しかし、次世代に里山を引き継ぐ活動がきっかけで、魅力の再発見により未来への宝物ができそうです。



平成29年度 協働によるまちづくり活動発表会

里山ウォーキングコースの整備 ー地域資源を活かしてー

- 1) 倉真地区と課題
- 2) 取り組みテーマと重点事業
- 3) 将来像に向けて

平成30年2月24日
掛川市文化会館 シオーネ

倉真地区 まちづくり協議会

概略版



地区課題への取り組み

- 1) 県道の拡幅整備や危険箇所の改善
- 2) 災害対策の推進
- 3) 福祉バスの運行
- 4) パンダ広場、学童保育
- 5) 新東名スマートICの実現
- 6) 時ノ寿の森クラブとの連携
- 7) 地域資源を活用した交流集客

2018/3/22

まちづくり計画より



本日で紹介すること

取り組みテーマ

7) 地域資源の再認識と活用

今日は散策路
を中心に報告

- ① 倉真を巡る散策路企画整備事業
- ② 倉真地区サイン計画・案内看板事業
- ③ H氏宅（空き家）活用計画
- ④ 倉真川河川整備事業



1) 倉真を巡る散策路企画整備

【散策路整備に取り組むきっかけ】

- ・子どもの頃は、生活の一部として山に入り、山を利用していた。
- ・今は、山に入ることもなく荒れていき、鳥獣被害も増えている。
- ・地元の住人でさえ、茶畑に通った野良道や、炭焼き場への杣道を知る人が少なくなった。
- ・かつての道跡には、竹や雑木が繁茂して、密林と化している。



先祖から引き継いだ山を
もう一度よみがえらそう！



楽しく汗をかいた整備作業

- ・コースの草刈り作業、コース整備隊の面々



散策路整備でわかったこと

①地区を見てまわることで...

→**見慣れた**里山、農地など周囲の美しさにあらためて**気付いた**

→より多くの人に、**里山の風景**や**山道を歩く心地よさ**を知ってもらうために、散策路整備へ



魅力の調査

②整備作業は大変だけど...

→地域の**再発見**と**魅力づくり**が楽しい

→地域内外から協力者が増えて、**外部から魅力を認めてくれた**



整備作業

散策路整備の効果

思いがけない効果

- 1) 「無い物ねだり」から**「あるもの磨き」**への発想転換
- 2) 東山地区との**「回遊ルート」**ができ、**ハイカーが増えた**
- 3) **ガイドブックに掲載**され、遠方からの来訪者が増えた
- 4) 春秋イベント「散策会」開催、**他地区の人との交流増**
- 5) 電車・バス利用者 **路線バスの乗客が増**

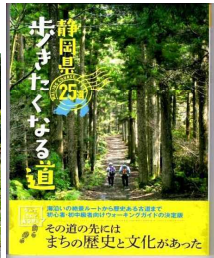
ガイドブック



路線バス



観音



尾根道を歩く

- ・岩と木の根が露出した **冒険の尾根道コース**は、中級者向き
- ・栗ヶ岳山頂から不動滝へは、急な斜面を降りる

下りの急斜面

根が露出した尾根道



今後の展開

- ・倉真温泉～栗ヶ岳間を「**里山ウォーキング公園**」に整備
- ・東山地区と協働して **健康づくりと癒しのエリア**に

里山ウォーキング公園 整備計画図



販売価格100円

3) H氏宅活用計画

古民家は宝もの

- ・**原田様**「地域のために活用して」と**寄付**の申し出
- ・バス停横 コース出発点、**賑わい拠点**として計画検討中



土地：776㎡
家屋：約250㎡
木造1部2階



4) 倉真川整備事業

川は宝もの

- ・地域の宝もの 倉真川、**安全で親しめる川づくり**を進める
- ・県土木の協力を得て、**リバートレッキング**は2年目



自然の岩と淵

将来像 10年後

第1次、第2次まちづくり計画

キャッチフレーズで表現

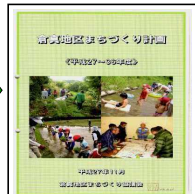
「いいなあ山と川、いきいき倉真」

- ・山と川に代表される**豊かな自然環境**、住む人々・訪れる人々で**活気あふれる倉真地区**に。
- ・みんなが住みやすさを実感できる地区を目指し、**活発な活動が展開**されている姿。

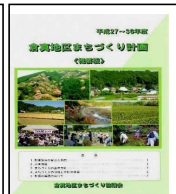
1次計画（H16作成）これまでの10年



2次計画（H27作成）



これからの10年



活動の基本となる考え方

（H16年度に策定）

住民の自助努力(まず汗をかく)
+
多様な主体との協働で

重要課題に取り組む 自立した地区を目指します



まちづくり特別計画協定調印 H16/2



アドバイザー講評 千野和子

立派な活動で少し驚いてしまいました。

地域の森ではありますが、広い範囲の森林整備となると、土地の所有権のところではなかなかうまくいかないケースが多いなか、個人的な所有や、財産区などの広い範囲を整備できていることは、本当にすごい事だと思います。これは「ないものねだりからあるもの磨き」という発想の転換だけでは、なかなかこうはいかないなと思います。

倉真地区に、もっと色々な方に来ていただきたい、ということですが、案内チラシなどがあれば、静岡県観光協会や、ふじのくにNPO活動センターに置いて宣伝したいと思いま

17

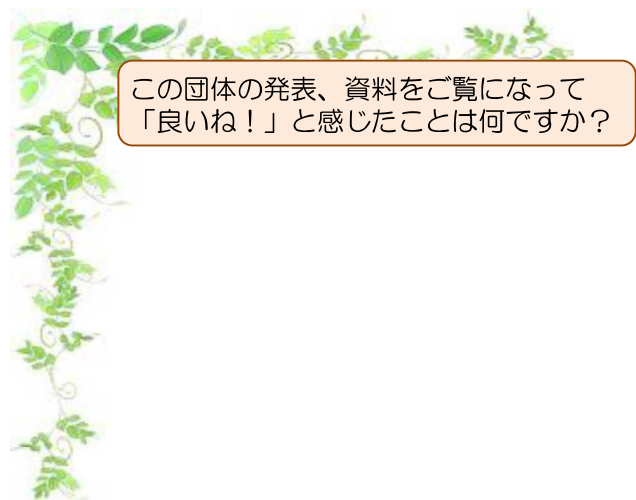


すので、是非ご提供ください。

トレッキングするには、道路の途中のサインボードなども本当に必要なものだと思います。今後そのような道路のメンテナンスというのにも、当然エネルギーがかかりますので、その財源も必要になると思います。それらの整備にかかる費用のために、これからはお土産をたくさん買っていただくことや、案内マップを現在の100円から、もう少し上げてもいいのかなと思います。

そのような財源確保にも色々工夫していただき、末永くこの散策道路を守っていただきたいと思いました。

18

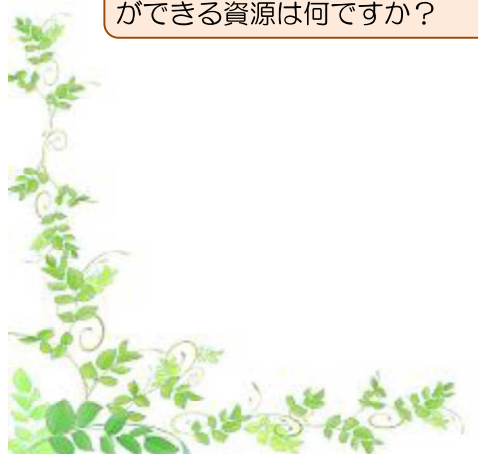


この団体の発表、資料をご覧になって「良いね!」と感じたことは何ですか？



自分たちの活動に活かせると思うことは何ですか？

自分たちの地域にある『あるもの磨き』ができる資源は何ですか？



大須賀第二地区まちづくり協議会

【 横須賀城址等を活かした 交流活動等について 】

満足度調査を行うと市内平均を下回る当地区では、地域課題に取り組むことで、地元を愛し「住んでいて良かった」「地元に住み続けたい」と思う人を増やす活動を展開しています。

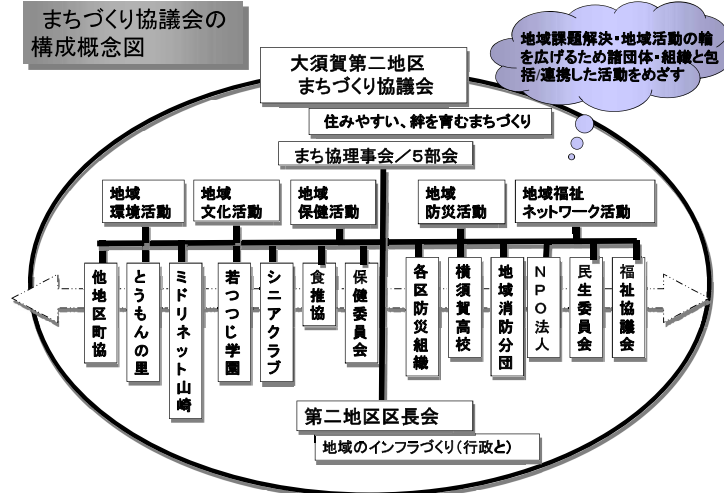


大須賀第二地区まちづくり協議会

平成29年度 協働によるまちづくり活動発表

横須賀城址等を活かした 交流活動等について

まちづくり協議会の 構成概念図



大須賀第二地区の課題

※H29/7の市民意識調査

掛川市平均 80.0%

→ 大須賀中学校区 59.1%

※設立時のアンケートから

- …合併から12年、取り残された？
- …生活環境への不満、高齢化の不安？
- …まちづくりのビジョンが見えない？

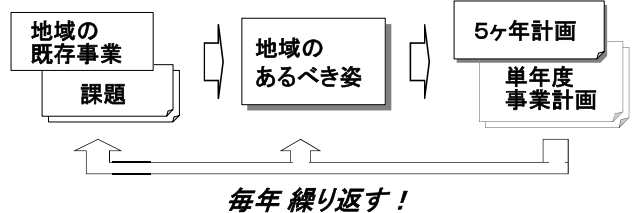
➡ **協働によるまちづくりの役割大！**

I. 大須賀第二地区のまちづくり計画

計画の進め方

(H28年設立総会で確認)

環境変化の中、あるべき地域のビジョンを描き、その実現に向け、5ヶ年計画及び単年度事業を実施する。



まち協活動の展開

(ステージⅠ)

まち協の各部会毎に身近なテーマから活動を開始。
皆で「まちづくり」を考え、まち協の役割を知ってもらう。

(ステージⅡ)

元気なまちづくりへの活動を

NPO・他団体／地区の各組織と連携した活動へ
[地域資産(強み)を活かし、活動の輪を広げる]

まちづくり事業としてのテーマプロジェクト活動の展開へ
[地域のニーズを掴み、知恵を出し
⇒ “住んでよかった度”のアップへ]

あいさつ活動／交通安全／環境美化活動



防犯・防災活動



地区内の防犯灯の点検

①第二地区の防災計画をまとめる。

各区自主防災会
防災計画書



②防災マニュアルを第二地区全戸に作成・配布



若つし会
地区懇談会で
講習会を実施

地域住民へ防災
意識の啓蒙を行う



広報活動・まち協瓦版の発行

全戸に配布し
住民とまち協
との信頼共有
等の場!



年4回の発行、まち協
各部の活動状況、各
団体・組織のイベント
お知らせ行事予定
等々

屋外掲示板の整備
地域協働環境整備
事業で実施



地域資産（強み）を活かし、活動の輪を広げる

大須賀第二地区の地域資産（強み）

- ・豊かな文化資産（横須賀城址と城下町文化）
- ・幼小中高の文教地区で育てる人的資産
- ・南遠州の豊かな田園と豊かな湧水

③

豊かな湧水の活用
防災水源やイベ
ントにも活用

水質検査証



地区のシンボル
横須賀城址

①
地域文化資産と田園をめぐる
エコウォーキング大会の開催



②
跡地の多目的利用
3世代が利用する
多目的広場に



エコウォーキング大会（1）

各団体・組織と連携し
地区イベント（11・1
2）として合同開催！

「どうもんの里」でお
いしいおにぎり汁を
食べました！



熱心にゴミを
拾いながら
エコウォーキング

エコウォーキング大会（2）

交通安全部会も
参加者の安全確
保に大活躍！



エコウォークで
環境保全PR!



福祉協議会の
福祉活動も
PR!



休憩所では
参加者への
水分補給！



エコウォーキング大会（3）

イベントコンセプト
地区の文化と豊かな
田園をめぐるイベント

神社に伝わる歴史
に耳を傾け...



景色の良い茶畑
の中を歩く...

横須賀城の歴史を
聞きながら休憩



各団体とのコラボレーションの推進

第3回福祉まつりの共催へ

地区福祉協議会etcと

◇ イベント・展示

- 第二地区の高齢者サロン活動紹介（フリーサロンを開催）
- 児童館のちびっこイベント（ぶら板、切り紙コーナー、紙芝居）
- 大須賀地区の地域福祉活動およびまちづくり活動の紹介
- 車椅子・リフト車乗車体験（おおすか苑）
- みんなの工作コーナー、福祉ゲームコーナー
- 健康チェックコーナー（杏林堂チーム）

◇ 模擬店コーナー

- パン・焼き菓子etcの販売（掛川市内の各福祉施設）
- 健康づくり食生活コーナー（食推協）
- 地元掛川茶のサービス（山崎茶農協）

※ 各地区から福祉バスによる送迎実施

イベントコンセプト

地域の人が地域の
福祉活動を紹介し、
認知してもらう

“包括・連携し活動の
輪を広げる”

- ・スケールメリットを行かせる課題
- ・単独では取組めない課題
- ・担い手・資金等で難しい課題

重要地区課題への取り組み

(cf) 交通問題プロジェクト

- 防災水源活用プロジェクト
- 遊び場プロジェクト
- 子育て支援プロジェクト
- 高齢者お助けプロジェクト...etc

まちづくりコンセプト

「地域に必要で、役に立つ
まちづくり協議会にな
る！」

皆で知恵を出し、重要課題に取り組み
“住んでよかった度”のアップを目指す

まち協に企画委員会、女性部の新設、実行チームの強化



アドバイザー講評 川端務夢

大須賀第二地区の素晴らしいところは、住民のニーズが何かを聞き、それを吸い上げ、形にする「マーケティング」から始まっているところです。

地域資源についても、事実の一面を側面的に見て、多面的に見ない傾向がありますが、マーケティングを行うことで地域資源の棚卸しができていると思います。

最も感激したのは、城の跡は「文化財」「歴史資産の跡地」ということだけで見がちですが、ここを多目的広場として活用することで、人が集まる場所に切り替えようとする柔軟な考え方を持っていることです。山や森林というと木ばかり見たがるところを、「葉っぱ」「景色」「空気」¹⁷

「鳥」「獣」はどうなのか、といったことができていると感じます。

また、これから継続的に活動するための人材の確保として、高校の存続を視野に入れていることも素晴らしいと思います。

まちにはいろんな人材や資源がいます。「この指とまれ」的な発信をし、他町から参加する人も入れて3年程度のプロジェクトチームをつくり、一定の目的を達成したら解散してまた集める、といったクラスター式の活動をする、他の地域から学生なども入りやすくなると思います。高校生にも入ってもらい、一緒につくりあげると、まさに人材育成になると思います。これからも素晴らしい活動を続けていってください。

18

この団体の発表、資料をご覧になって「良いね！」と感じたことは何ですか？

自分たちの活動に活かせると思うことは何ですか？

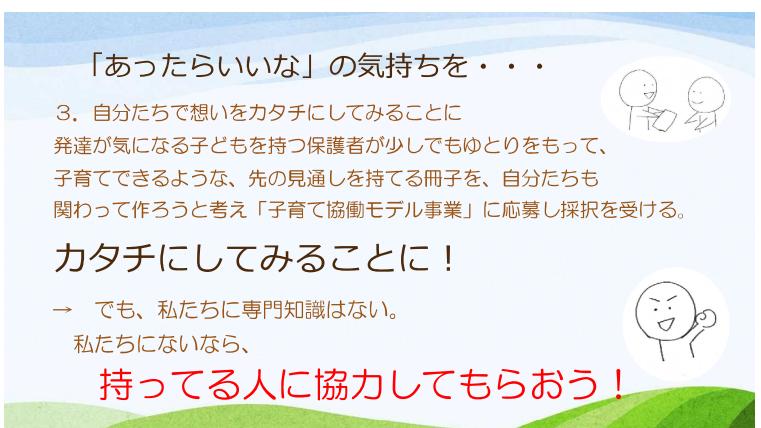
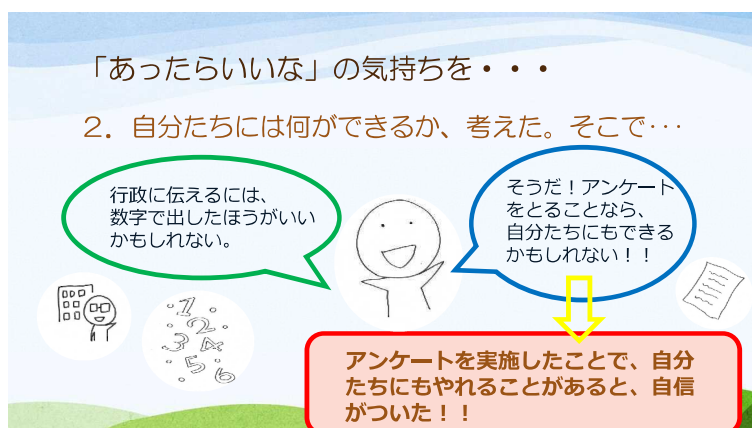
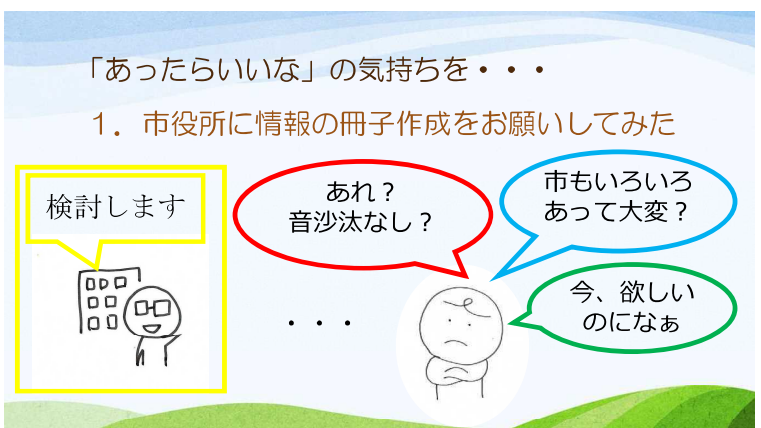
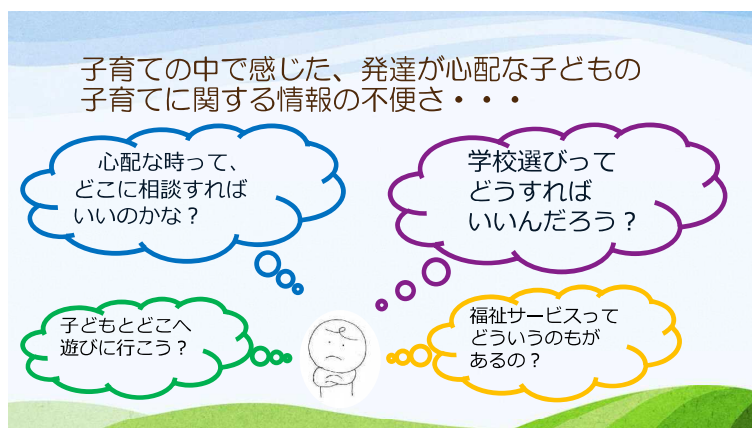
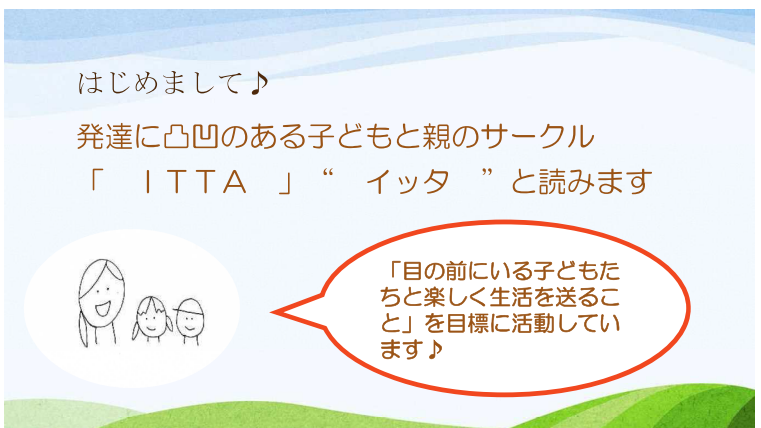
活動の仲間を増やすためには共感を得ることが重要ですが、どのように共感を得たら良いのでしょうか？

ITTA

【「一緒に歩む」楽しさ～協働でもっと私のまちが暮らしやすくなる～】

発達に凸凹のあるお子様の親は多くの悩みを抱えています。そんな悩みを解決するために、行政を頼りましたが良い返事がもらえず・・・

そこで、自分たちの抱える課題を多くの人と共感し、協働をきっかけにニーズにあったものを作りました。



発達が気になる子どもの支援に携わる医療、教育、福祉、行政の方々に協力頂き編集委員会を結成、冊子づくりのスタート！

「協働」って何だろう？って
思っていたけれど・・・

共通の目的に対し、異なった組織が知
恵や資源を出し合うことで、「やりた
いことが、できた！」

協働

こうしてできた、冊子nikori（ニコリ）



nikori（ニコリ）

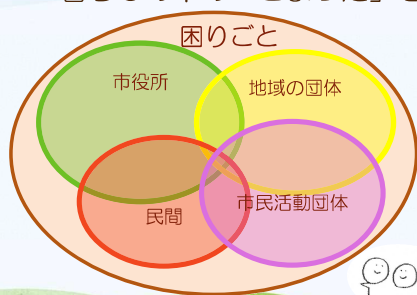
～子どもの育ちが気になるあなたへ～
乳幼児期から就学まで

医療・教育・福祉・行政などの情
報が親目線で書かれている情報誌

1000部発行（現在も増刷中）

やっていく中であれ？！と気づいたこと①

暮らしの中の「こまった」を解決する様々な団体



自分たちの得意なところ、相手の得意なところを理解することで、協働しやすくなる。また暮らしの中の困りごとの担い手は行政だけでなく、私たちにもできることがあるのでは？！

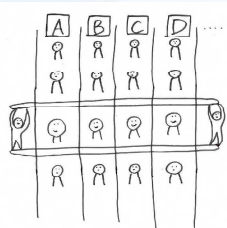
やっていく中で、あれ？！と気づいたこと ②



物事を、様々な角度から

対話をしながら、相手の
立場や、気持ちがわ
かるようになった
→多面的なものの見方
ができるようになった

やっていく中で、あれ？！と気づいたこと ③



共通のテーマでのつながり

様々な機関と関わる中で、
それぞれ個別に繋がって
いたものが横でつながる
ようになった。

やっていく中で、あれ？！と気づいたこと ④



ただ待っているだけでは・・・



自分たちでつくろう！
自分たちでつくると・・・
楽しい！

最初は、市がやってくれるのを
待っていたけれど、自分た
ちも関わり必要なものをつ
くっていく楽しさを覚えた。
私たちにもできることがあ
る？！

必要としていることを主体的にやる楽しさは、無限♪

関わる喜びが
生まれる！

好きなように
カスタマイズ

今ある資源を
最大限に活かす
方法を考える
ことができる

自分たちに
あったものを、
つくりだせる

この場所が
もっと好きに
なる！

様々な人や団体の良さを認め
合い、活かせるまちになれば
いいな。そのために 今後も
活動していきたいです。

ご清聴ありがとうございました！



アドバイザー講評 千野和子

ゼロから課題を解決するため仲間を見つけ、財源を見つけ、協働についても理解していくプロセスについて書かれた本はたくさんありますが、今日のお話は実体験に基づくもので、わかりやすく説得力のあるものでした。

行政は公益性、公共性を重んじるので、一つの課題が多くの人々の課題でないと予算が付きません。でもそれぞれが抱える「困った」は、世の中にはいっぱいあります。これに気付いた人が「なんとかしなきゃいけない」と、困りごとの解消につながる取り組みを始められます。

そのような課題も、だんだんと仲間が集まり、社会の課題と認識されると、行政がお金を出してくれることもあります。そうではないときも仲間や民間がお金を出してくれることもあります。

私たちふじのくに未来財団はそういった組織の立ち上げや活動を支援していますが、子育て支援事業の枠もあります。ここで採択されることで財源と社会的信用を得ることに繋がりますので、ご検討ください。

また、行政との関わりが増えていくと、組織というものを求められるようになります。契約を結ぶとなると、任意団体ではなく、法人格を求められることも出てくるかもしれません。今後は、組織としての形、その運営、財源確保、新たな課題、内部の問題に立ち向かっていってください。

なお、ふじのくに未来財団では、地域の活動でもあっても公共性が認められたり、他の地域の模範となる活動であれば、地区まちづくり協議会についても支援を行う事ができますので、利用についてご検討してみてください。

この団体の発表、資料をご覧になって「良いね!」と感じたことは何ですか？

自分たちの活動に活かせると思うことは何ですか？

自分たちの感じている課題を、他者も課題と感ずるためにはどうしたら良いでしょうか？



株式会社 資生堂

【 資生堂 掛川工場のCSR (企業の社会的責任) 】

資生堂掛川工場は、資生堂アートハウスに代表される文化事業だけでなく、様々なCSRを行っています。地域の環境活動を始め、地域を元気にする活動などや従業員が安心して働ける環境作りのため事業所内保育所を整備し、子育て支援を行っています。



生産拠点



掛川工場



掛川工場



2000年
静岡県都市景観賞受賞

Our Mission

Our Mission
We cultivate relationships with people
We appreciate genuine, meaningful values
We inspire a life of beauty and culture.

私たちは、多くの人々との出会いを通じて、
新しく深みのある価値を発見し、
美しい生活文化を創造します



Our Vision

Our Way

All members of Shiseido Group pursue shared and sustainable growth with all stakeholders.
資生堂グループ全社員は、持続的発展を目指して行動します

- With Consumers
お客さまとともに
- With Business Partners
取引先とともに
- With Employees
社員とともに
- With Shareholders
株主とともに
- With Society and the Earth
社会・地球とともに



資生堂のCSR

環境活動

文化活動

女性支援活動

人々を元気づけ
健やかにする活動

地域に貢献する活動

動け、資生堂。

掛川工場のCSR



文化活動



地域に貢献する活動



地域に貢献する活動



文化活動



人々を元気づけ健やかにする活動



地域に貢献する活動



子育て支援活動





ゴミ回収活動



天ぷら油回収活動



古紙回収活動



社用車に電気自動車

SHISEIDO

アドバイザー講評 川端務夢

「女性が輝く活動を支援する」という活動を、古くから行っていたので、発表いただいたCSRの本気度を強く感じました。ぜひ、今度は掛川というところの視点でお願いしたいところがあります。

静岡県の西部エリアでは、高校・大学を卒業した女性が、地域に定着しないという実態があります。ものづくりの地域であるがゆえに、女性のキャリアへの進出が大変難しい土壌で、キャリアとして頑張るために都市部に行こうという女性がとて多くなってきています。

掛川での女性のキャリア定着のため、女性が自信を



「省エネ・省資源を考える学習会」 With 掛川市



一瞬も一生も美しく



SHISEIDO

動け、資生堂。



もって地域の中に入っていけるような支援に、ぜひ取り組んでいただければと思います。

掛川は風光明媚な地域環境・自然環境をもっています。掛川にある地域資源を研究材料としていただき、新たな化粧品原料の採出など、科学力を使った社会貢献もこれからの基軸の中で考えていただければと思います。

また、保育・未就学児童の社会的課題のひとつに外国籍をもった子どもたちの保育という問題があります。グローバルな資生堂さんですので、「カンガルー掛川」においても、多文化共生という面からも、言葉の問題に対応した幼児教育・保育などについても展開していただければと思います。



アドバイザー第2回全体講評（川端務夢）

第1回目に引き続き、たいへん画期的な活動事例が発表されています。昨年の地域活動よりも、より突っ込んだ長中期に関わる計画を持ったまちづくり活動で、アイデアの出し方が以前より柔軟になってきました。

市民活動により社会的課題を解決するための重要な視点に「鳥の目、虫の目、魚の目」があります。

「鳥の目」は俯瞰し、物事を客観的に見る力です。主観的に見ると自分ごとの問題しか見えませんが、相手の立場に立つためには、どうしても客観的に問題がどこにあるのか見る力が必要です。今日の活動の中には、本当に鳥の目をもって、自分たちの地域を見つめている活動がありました。

「虫の目」は、接写して物事の深いところにある真実を見つける力です。ある一面を見ると可哀想でも、逆から見ると可哀想なだけの問題ではない深い問題性をはらんでいることもあり、物事を多面的に見る力を求められます。

そして、最後に市民活動を持続可能なものとするために、「魚の目」があります。目と言うより魚の生き様の中に表されています。魚は水の流れを身体全体で感じています。世の中の流れだとか風潮、今どういった所で発表すれば、誰に反応するか、常に社会的見地を見つめながら自分たちの居場所を考えると、継続性のヒントがあります。

こういった公的の場所でのお金の話はタブーとされますが、継続するためには経済自立が必要です。世間の風潮だとかを読み取りながら今日の市民活動の場では、市民の感じている課題の深いところを見つめて、問題が全体のどういった位置づけで、どういう問題性をはらんでいるのかを見極め、それを経済的に継続する仕組みをみんなで考えることが大事です。一人で考えるよりも、皆で集まり、それぞれの知恵を集めていただければと思います。

ビジネス、市民活動でも足らないモノをモノにしたとき、足らないコトをコトにしたときに事業になります。これからの市民活動では、足らないモノ、コトを、補っていくことが求められます。本日の発表を振り返るとそのために汗をかき、時間を費やしながら頑張っていらっしゃる方が、この掛川に今回だけで4団体います。それだけ市民の方が掛川を愛して、掛川の足らない問題をこのままにほっとけないとして立ち上がり活動をはじめています。そして、この会場に多くの方がいろんな事例を聞きたいと集まっています。このように掛川を愛して活動する人がいらっしゃいます。そういった方を掘り起こして共に活動することで、もっともっと素晴らしい掛川になるよう望んでいます。

まちづくり活動紹介エリア

参加団体 10団体

【市民活動】

- ・ママバトン
- ・かけがわ発達支援を考える会
- ・ITTA
- ・桃色かけがわ6
- ・特定非営利活動法人 掛川シニア交流研究会
- ・特定非営利活動法人 世界女性会議ネットワーク静岡
- ・かけがわこどもアレルギーの会
- ・公益財団法人 ふじのくに未来財団

【企業】

- ・株式会社 キャタラー
- ・株式会社 資生堂



会場の様子

第 1 回



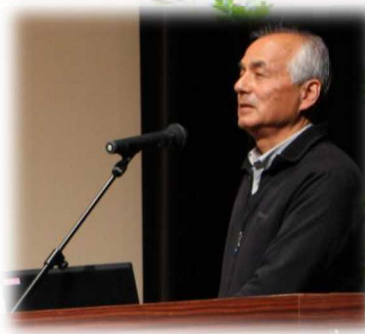
度 協働によるまちづくり活動発表会
～来て、見て、活かす！まちづくりのヒントがいっぱい～



第2回



平成29年度 第2回 協働によるまちづくり活動発表会 ～ 来て、見て、活かす！まちづくりのヒントがいっぱい ～



アンケート結果【第1回】

参加者総数 210人 アンケート回収 102枚（回収率 49%）

（1）あなたの所属する組織を教えてください。

地区まちづくり協議会	52人	51.0%
地域生涯学習（地区）センター	15人	14.7%
市民活動団体（ボランティア団体を含む）	11人	10.8%
NPO法人	6人	5.9%
地区福祉協議会	5人	4.9%
企業・事業所	5人	4.9%
その他	8人	7.8%

地区まちづくり協議会からの出席者が半数を占めており、市民活動団体や企業・事業所からの参加者が少ない。今後これらの参加者をどう呼び込んでいくかが課題である。また今回、他の市町からの来場もあった。

（2）まちづくり活動発表会全体の開催時間はいかがでしたか。

ちょうどよかった	67人	65.7%
もう少し短い方がいい	31人	30.4%
もう少し長い方がいい	2人	2.0%
未回答	2人	2.0%

昨年度のご意見を踏まえ、開催を2回に分け、1回に発表する団体数を昨年度の半数にしたことにより、開催時間が「ちょうどよかった」と回答した人の割合が6割を超えた。しかし、団体の発表時間の長短やその他にかかった時間により、「もう少し短い方がいい」と感じられた方も見受けられ、時間の配分の検討や調節がより必要と感じる。

（3）発表団体の所属ごとの割合はどうでしたか。

（今回は、地区まちづくり協議会2団体、市民活動団体が1団体、企業が1社でした）

ちょうどよかった	68人	66.7%
まちづくり協議会の割合を増やしてほしい	20人	19.6%
市民活動団体の割合を増やしてほしい	6人	5.9%
企業の割合を増やしてほしい	5人	4.9%
未回答	3人	2.9%

「ちょうどよかった」との回答が約7割と多く、次いで、まちづくり協議会の割合の増加を求める回答が多かった。これは、まちづくり協議会関係者の出席が多く、他のまちづくり協議会の取り組みに興味がある方が多いためではないかと思われる。

（4）今後のまちづくり活動に活かせる気付きは得られましたか。

大いに得られた	7人	6.9%
得られた	66人	64.7%
どちらともいえない	15人	14.7%
あまり得られなかった	10人	9.8%
得られなかった	3人	2.9%
未回答	1人	1.0%

「大いに得られた」、「得られた」と回答した人の割合は7割を超え、多くの方にまちづくり活動を広げるきっかけが提供出来たのではないかと感じる。しかし、「あまり得られなかった」、「得られなかった」と回答された方もおり、より多くの方の気付きが得られるよう、内容を見直していく必要を感じた。

（5）発表会全体を通しての感想を教えてください。

- ・地域の人たちの協力度合いが難しいと感じた。私の地域も頑張らねばと思う。
- ・どの団体もそれぞれに活動が盛んだと思いました。
住んでいることに幸せを感じるまちづくりに協力したいです。
- ・各地区の発表が聞かれて、自分たちの地区にも取り込める話も聞く機会にもなり良かったです。
今後もこのような機会に参加したいと思います。
- ・始まって間もない会から出席させてもらいました。今後の活動の参考としく参加しましたが、大変良かったと思います。
- ・2つのまち協の活動事例と自分達の活動との比較をしながら聞かせていただき、参考になりました。
2つのまち協ともに肩肘張らずに活動・運営している印象を受け、参考になった。
- ・自分達のまち協においては、まだまだ地域に認知されていないと今日の発表を聞きながら感じました。
- ・各地区や団体の活動からヒントをたくさんいただきました。ありがとうございました。
- ・市側の言う「第2ステップ」「第3ステップ」の事例又は、それに至る協議会の経緯の発表があると良かった。
- ・発表会は年1回で良いのではないかと。・大きな会場で開催願います。
- ・発表会聴講は各地区で役職を持っている方がほとんどであり、一般市民の参加が少ないように思う。
- ・発表資料の絵、文字が小さくよく見えない。（配布資料も）
- ・実施内容の例記であるが、事例の成功プロセスの発表をしたら。
- ・もっと効率的に時間配分をした方がよい。
- ・色々な活動例がもう少しほしい。
- ・前年よりプロジェクターが文字等小さく、分かりにくかったのが少し残念。

などなど、多数のご意見をいただきました。

アンケート結果【第2回】

参加者総数 250人 アンケート回収 191枚（回収率 76%）

※第1回より(1)性別、(2)年齢の項目及び(3)所属組織の分類区分を追加しました。

(1) あなたの性別を教えてください。

男	154人	80.6%
女	32人	16.8%
未回答	5人	2.6%

男性：女性が5：1と、男性の割合が高く、男性の参加が多かった。

(4) まちづくり活動発表会全体の開催時間はいかがでしたか。

ちょうどよかった	140人	73.3%
もう少し短い方がいい	32人	16.8%
もう少し長い方がいい	5人	2.6%
未回答	14人	7.3%

第1回に続き、ちょうどよいとの回答が最も多く、7割を超えた。

(2) あなたの年齢を教えてください。

25歳以下	3人	1.6%
26歳～45歳	11人	5.8%
46歳～64歳	47人	24.6%
65歳～74歳	117人	61.3%
75歳以上	8人	4.2%
未回答	5人	2.6%

退職後の65歳～74歳の参加者が6割を超える一方、働き盛りの26歳～45歳、さらには25歳以下の若者の参加率が非常に低い。今回は土曜日の開催であったため、若者や、働き盛りの年齢層をいかに呼び込むかが今後の課題である。

(5) 発表団体の所属ごとの割合はどうでしたか。

（今回は、地区まちづくり協議会2団体、市民活動団体が1団体、企業が1社でした）

ちょうどよかった	140人	73.3%
まちづくり協議会の数を増やしてほしい	21人	11.0%
企業数を増やしてほしい	15人	7.9%
市民活動団体の数を増やしてほしい	15人	7.9%
未回答	人	0.0%

第1回同様、「ちょうどよかった」との回答が最も多く7割を超え、次いで「まちづくり協議会の数を増やしてほしい」という回答が多かった。しかし、企業や市民活動団体の発表数の増加を望む割合が第1回よりも増加しており、企業や市民活動団体の活動に興味をもつ方が増えてきているのではないかと予想できる。

(3) あなたの所属する組織を教えてください。

（主に活動する組織をひとつ）

地区まちづくり協議会	74人	38.7%
自治会	45人	23.6%
市民活動団体	12人	6.3%
地区福祉協議会	11人	5.8%
企業・事業所	7人	3.7%
地域生涯学習(地区)センター	6人	3.1%
非営利法人	5人	2.6%
その他	26人	13.6%
未回答	5人	2.6%

第1回より地縁団体の割合が増え、約7割を占める一方、依然として市民活動団体や企業・事業所の参加は1割足らずと非常に低い。

(6) 今後のまちづくり活動に活かせる気付きは得られましたか。

大いに得られた	26人	13.6%
得られた	128人	67.0%
どちらともいえない	22人	11.5%
あまり得られなかった	3人	1.6%
得られなかった	2人	1.0%
未回答	10人	5.2%

第1回より、「得られた」及び「大いに得られた」と回答した人の割合が増加し、「あまり得られなかった」及び「得られなかった」と回答した人の割合が減少した。

(7) 発表会全体を通しての感想を教えてください。

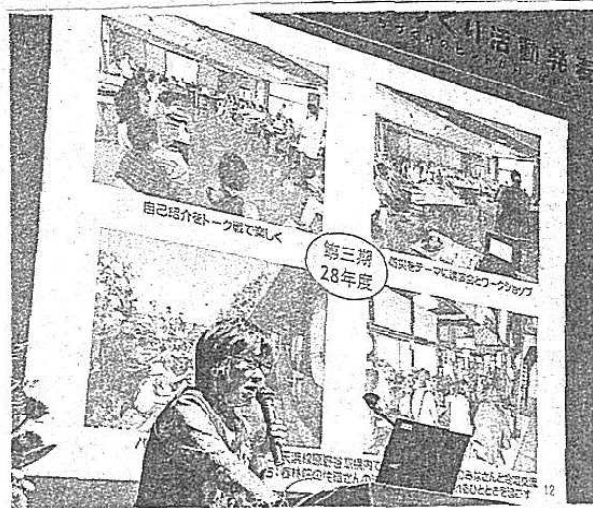
- ・まちづくりの内容が毎年向上していると感じた。
 - ・3種の団体の発表があったが、どれも活性化することが地域を変えていくと思った。
 - ・自分たちのことは協働で取り組み、アクションを起こす必要生を感じた。
 - ・成功、完結事例のみならず途中経過、失敗事例等があっても良いと思う。
 - ・地域住民の参加の意識を高める必要性を感じました。
 - ・地道だが、ポツポツと役に立つ活動を着実に進めていることがよく分かった。
 - ・回を重ねて多くの発表を期待する。・質問する時間があると良い。
 - ・幅広い視野で協働について学ぶことができた。まちづくりの活動は、どう長く続けていけるかが課題。
 - ・発表団体の数を若干増やしても良いのでは。
 - ・各地区で色々な活動をしているが、一般の人が知る機会が少ないので、広報かけがわにまち協コーナーを作って各地区の活動を掲載してほしい。
 - ・地域・市民団体・企業・行政のつながりを発信できるような広報があれば良いと思った。
 - ・まち協全体の説明を最初にやると良いのでは。
 - ・まちづくりにおいての区民1人1人の協力が絶対と思った。明るく楽しみながらやってる感じがした。
 - ・若者の参加者が少ない。若者が参加出来るような工夫を！
 - ・無理をせず、地域の特性に合った内容をテーマとし、まちづくりの活動をしていることが分かりました。
- などなど、多数のご意見をいただきました。

地域活動の事例紹介

掛川でまちづくり発表会

掛川市は15日、協働によるまちづくり活動発表会を市美感ホールで開いた。市内31地区のまちづくり協議会役員や企業担当者ら約200人が参加した。

西山口地区まちづく



「あした塾」の取り組みを発表する地区役員＝掛川市の美感ホール

「発掘につながる」と展望を語った。広報紙や主催事業を充実させている佐東地区まちづくり協議会、史跡の復元に挑戦している中村砦（とりで）城山保全会、地域貢献に力を注ぐ触媒メーカー「キャタラー」も、それぞれの活動を発表した。

～編集後記～

地区まちづくり協議会が全地区に発足し、まもなく3年目を迎えます。市内では、地域課題を解決すべく地区まちづくり協議会、市民活動団体、企業、行政など多様な主体が手を取り合いながら、地域の特性に合わせたまちづくりを展開しています。今年度の8団体による発表においても、その地区に住む人々のニーズをとらえながら、必要とされている活動を提供しています。

今回の発表団体の多くが、行政が対応し難い課題に対し、柔軟な発想と行動力、人を惹きつける魅力によって果敢に立ち向かって結果を出しています。地区まちづくり協議会においては、活発で魅力的な発表をしていただきましたが、これらの地区が人的、財政的に恵まれているわけではありません。課題に直面しているからこそ、その中で自分たちの地域で暮らし続けるために、自分たちのできることを増やし、地域福祉を活性化させ、行事から事業へと、地域が変化していく姿を垣間見ることができました。

他地区においても、この活動発表会が新たな気付きへ導き、地域課題解決のために何をするべきか考え、行動に移す方が一人でも増えていただければ幸いです。

【編集発行】 協働によるまちづくり活動発表会事務局
(掛川市生涯学習協働推進課 協働推進係)
〒436-8650 掛川市長谷一丁目1番地の1
TEL : 0537-21-1129 FAX : 0537-21-1165

平成30年3月29日発行

